

# 令和4年度 学校評価報告書【国立市立国立第二中学校】

学校教育目標	たくましく現代に生き、平和で幸福な未来社会を創造する人間豊かな生徒の育成をめざす 一、よく考え進んで学習する生徒 一、自らの心と体をきたえる生徒	重点目標	『子供たちの模範となり、丁寧に鍛え、成長率NO. 1をめざす』 ～鍛え・乗り越え・考え・成長する国立二中～ 共に学び、共に助け合い、共に生きる「共学」「共助」「共生」の国立二中
--------	--	------	--

学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な方策	評価指標	達成状況		分析	改善策	学校関係者評価
					中間評価	最終評価			
一 一 自よく 自らの考 え進ん で体ん できた る学 習す る生 徒	「学習力向上」 に取 り組 む育 成	意欲を高める学習指導を通して、主体的に学ぶ生徒を育成する。  ・共に学ぶ「共学」	「基礎的な知識・技能」の習得 ・ねらいを明確にした授業改善 ・授業規律の柱としての学び、話し合いのルール「いらたまご」の確立 ・体力テストの活用 ・家庭学習の定着	・生徒授業評価「分かりやすさ」の肯定的評価80%以上 ・家庭学習の定着状況 ・1ページノートの活用を全学年で実施 ・体力テスト、都の平均値との比較	B	A	・2学期末の生徒授業評価「分かりやすさ」の肯定評価は94%であった。授業改善の取組についての生徒評価も肯定評価が80%以上であった。改善が奏功していると考えられる。 ・家庭学習定着には生徒自己評価と保護者評価に乖離がみられる。生徒の取組意識と保護者の期待の違いと考える。	・校内研修、研究授業の充実を図り、次年度も二中における学習指導のスタイルの浸透、徹底に取組み、全教員がわかる授業の実践への意識啓発をする。 ・1ページノートの実施の意味を改めて生徒が理解すること、保護者への理解を促しながら、家庭学習定着を目指す。	・家庭学習において生徒は宿題を出されるだけではつまらないと感じるはず。個別最適な課題の出し方の工夫やより良い家庭学習の在り方については検討の余地がある。 ・「1Pノート」の取組開始前と比べて、家庭学習に取組む生徒は増えている。
			「思考力・判断力・表現力」の育成 ・学びを活用する力の育成 ・チャレンジする課題の設定 ・問題解決型学習の活用 ・Google/Apple/ソフトの効果的な活用	・生徒授業評価「深く学ぶ楽しさ」に関する肯定的評価80%以上 ・教員アンケート「学びを活用できる授業実践」肯定的評価80%以上	B	A	・「深く学ぶ楽しさ」を実感している生徒の割合が80%以上は全教員が該当した。今後も深める授業づくりが今後の課題である。	・昨年度の研究を通して今後も「楽しい」の真の意味を教員が理解し、授業に役立てることで、より深い学習・学びにつなげていく。	・授業改善への前向きな取組は感じられる。 ・生徒の授業評価「分かりやすい」が高いのは良いが保護者の評価はそこまでではない。 ・研究の成果を全教員で共有し次に生かす工夫に繋げることが良い。
			「個に応じた学習支援」と「特別支援教育」の推進 ・特別支援学級（A組）と特別支援教室（かがやき）、通常学級との指導・支援の連携 ・放課後補習教室「二中STEP」の活用	・習熟度別授業（数・英）の活用 ・二中STEPの充実と質問教室の実施 ・特別支援教育の視点における授業実践の充実 ・保護者アンケート「個に応じた取組」肯定的評価80%以上	C	B	・「二中STEP」は開始から3年を迎え、定着しており、一定数の生徒の参加が見られ年間延べ生徒利用者数は、173名(2/8時点)であった。一方でその効果検証ができなかった。 ・保護者アンケートの「5. 一人一人を大切に学ぶ学級経営」の肯定評価が77%で、1学期より6P上昇した。	・個別最適な学習に着目した取組を十分生徒・保護者に浸透させることが重要である。様々な場面を通して、今後も広報に努めていく。	・二中ステップに1年生があまり参加していないのが気になる。もっと保護者に浸透させる必要がある。 ・保護者アンケートの「5. 一人一人を大切に学ぶ学級経営」が増えたのは良い。
一 正しく 判断し 実行す る生 徒	「生活力向上」 を 図る の育 成	きめ細かな生活指導により生徒の規範意識を高め、自他を敬う生徒を育成する。  ・共に助け合う「共助」	「基本的生活習慣」の確立 ・「生活規律改善計画」の充実 ・情報モラル、リテラシー教育の充実 ・居心地の良い学校づくりの推進 ・コロナ禍による生活様式の定着	・心地よい挨拶の励行 ・TPOに応じた言葉遣い、態度 ・時間と安全を意識した学校生活 ・改訂SNS学校ルールの定着 ・保護者アンケートや生徒アンケート「生活指導」肯定的評価80%以上	B	C	・保護者アンケートの「4. 基本的生活習慣」の肯定評価は94%、「12. 規範意識」の肯定評価は74%である。 ・SNS学校ルール見直しは、最終的に取り組み、生徒による情報モラルの向上が課題となっている。	・規範意識を高める指導の充実を図る。学習活動、特別活動等を通し、様々な場面で生徒に意識啓発を促す。 ・毎月1回の安全指導については、テーマ・主題を設定し学年や全校で統一した指導を実施していく。	・基本的生活習慣の確立に関する項目の高評価の傾向がある。更に生徒自らが考え実践し「達成感を高められる」よう「生徒の主体的な活動」について取組みを充実させてほしい。
			「いじめ未然防止、早期発見・早期対応」と「不登校生徒の減少」の取組 ・ふれあい月間とQ-Uアンケートの活用 ・スクールバディ（SB）の活用 ・教育支援委員会の活性化	・保護者アンケート（12月）「いじめ未然防止取組・不登校対策」肯定的評価80%以上 ・Q-U調査結果分析と要支援生徒支援 ・スクールバディ（SB）活動の充実 ・教員アンケート「教育支援委員会」肯定的評価80%以上	C	C	・保護者アンケート「11. いじめ防止の態度」の肯定評価は56%である。 ・Q-U調査に基づき、各学級における状況把握と具体的な取組を実施中である。要支援生徒の減少の改善がみられた。 ・1、2年生のスクールバディ活動について十分な取組や全生徒への発信等ができなかった。	・Q-U調査等の実態把握に基づき、学級・学年での支援の明確化・共有化を図り、改善の取組を継続する。 ・いじめ抑止のための生徒の取組を通して、生徒からのいじめ防止の意識を高めていく。 ・教育支援委員会の効率的運営について検討し、充実を図る。	・コロナ禍、制約も多い中であつたが努力の成果が見られる。 ・学級集団等、他者との違いを認め不足部分を補完することで団結力も高まる。 ・1、2年生のスクールバディ活動について十分な取組や全生徒への発信等ができなかったようである。
			「心の教育」の充実 ・「特別の教科 道徳」授業の充実 ・人権教育の充実 ・生命尊重教育の充実	・内容項目に応じた道徳科授業の指導と評価の一体化と授業改善 ・人権教育プログラムに基づいた生命尊重の指導工夫改善 ・「SOSの出し方」講演会の実施と啓発	B	B	・特別の教科道徳、人権教育プログラムを意識した授業を継続的に実施している。 ・「SOSの出し方」講演会、がん教育講演会、食育講演会等、生命尊重教育を1学期に実施し、意識啓発に努めることができた。	・生命尊重、他者理解の教育を継続して取り組んでいく。講演等の経験を活かし、生徒が発信する場面を意図的に作ることに重点をおく。	・情報モラルや情報リテラシー、デジタルタトゥー等の人権の問題に対して、外部との連携を図っていく必要がある。 ・ICTの発展に追いついていくことの難しさを感じる。問題が起きてからの指導が多いので、計画的な指導の必要性を感じている。
一 思 い や り を も ち 協 力 す る 生 徒	「人間力向上」 を め ざ す の 育 成	生徒主体の特別活動の充実を図り、互いを認め合う生徒を育成する。  ・共に生きる「共生」	「学級経営」「学年経営」の充実 「特別支援教育の理解と交流」 ・不登校、いじめ防止対策の推進 ・Q-U調査結果の活用 ・国立市におけるフルインクルーシブ教育の推進	・不登校、いじめ防止対策に関する目標の明言化 ・特別支援学級（A組）の円滑な運営と交流及び共同学習の実施 ・Q-U結果分析による要支援生徒の支援と生徒の学級に関するアンケートで肯定的評価80%以上 インクルーシブ教育の生徒保護者への啓発	C	B	・特別支援学級A組との交流及び共同学習について、学校行事における交流や希望者による通常学級への授業参加など個人の意向に合わせ年間を通して取り組むことができた。 ・保護者会にてインクルーシブ教育推進に向けた理解を求めたが、生徒への啓発は学級・学年を中心に取り組んでいる。教員に理解促進とともにさらに取組を進めなければならない。	・A組との交流及び共同学習の推進に向けて2学期以降「交流支援員」を配置することができた。スマイリースタッフ、特別支援学級指導員としての役割も担ってもらいながら、効果的な支援につなげていきたい。	・特別支援教育やインクルーシブ教育について積極的な情報発信を望む。日常生活の中で、互いを尊重することを生徒が身に付けられる指導を継続することによって、理解していただけるものと考えられる。 ・保護者の皆様にも保護者会等を通じて直接説明するなど更に理解を深めていただくよう努力が必要。
			「生徒が主体となって活動する生徒会活動の充実」 ・生徒主体の学校行事の実施 ・生徒会、委員会活動の活性化 ・部活動等を通じた自主的・自律的運営力の育成	・学校行事における生徒の充実度において肯定評価90%以上 ・生徒会、委員会活動の充実 ・生徒会によるいじめ撲滅推進活動とスクールバディ（SB）との連携 ・部長会等を通じた生徒の主体性の促進	B	B	・運動会、合唱コンクールにおける生徒の充実度は肯定評価90%となり、その目的をほぼ達成できたとみることができる。 ・生徒会活動等の活動は、2学期以降に2年生を主体に取り組んでおり、地域清掃を実施し昨年度より活動の可能性を広げることができた。	・「こども基本法」等の趣旨を教員が深く理解し、生徒の自主性や自覚を促すために、生徒会を中心としながら、ボランティア活動、SNS学校ルール検討、いじめ防止活動等に継続的に取り組んでいく。	・中学生という年齢的要素や実態から自主性に任せる部分が多い。呼びかけは工夫していく。今年度はゴミゼロボランティアに参加できてよかった。 ・生徒自身が企画、運営する学習の時間の設定を望む。
			「総合的な学習の時間」の充実 ・キャリア教育の充実 ・多様性に関する教育の充実 ・宿泊行事や校外学習の充実 ・共生社会実現に向けた啓発・充実	・経済同友会と連携したキャリア教育の推進（2年生の講演会） ・市の外部人材を活用した多様性に関する指導の充実 ・感染症対策を十分に講じた校外学習等の行事の実施 ・「がん教育」講演会の実施と啓発	B	B	・外部人材を招聘した特別授業は計画通り推進することができ、各々の目標を達成することができた。2年生のキャリア教育講演会は、9月に経済同友会の協力で実施できた。 校外学習、宿泊学習を通して生徒の自主性・自立性を育むことができた。	・「総合的な学習の時間」を効果的に活用し進路学習、校外学習、宿泊学習等の充実を図り、生徒の主体的な学びを促進し、より良い生徒の成長につなげていく。	・社会福祉協議会等の企画に参画する等、自分たちの問題を自分達も考えるのも良い。地域との取組が今後一層求められてくる。 ・学校での出来事について詳しく知りたいと思っている方もいる。情報発信をもっと積極的にしていくべき。

達成状況の指標 A:100%～80% B:79%～50% C:49%以下